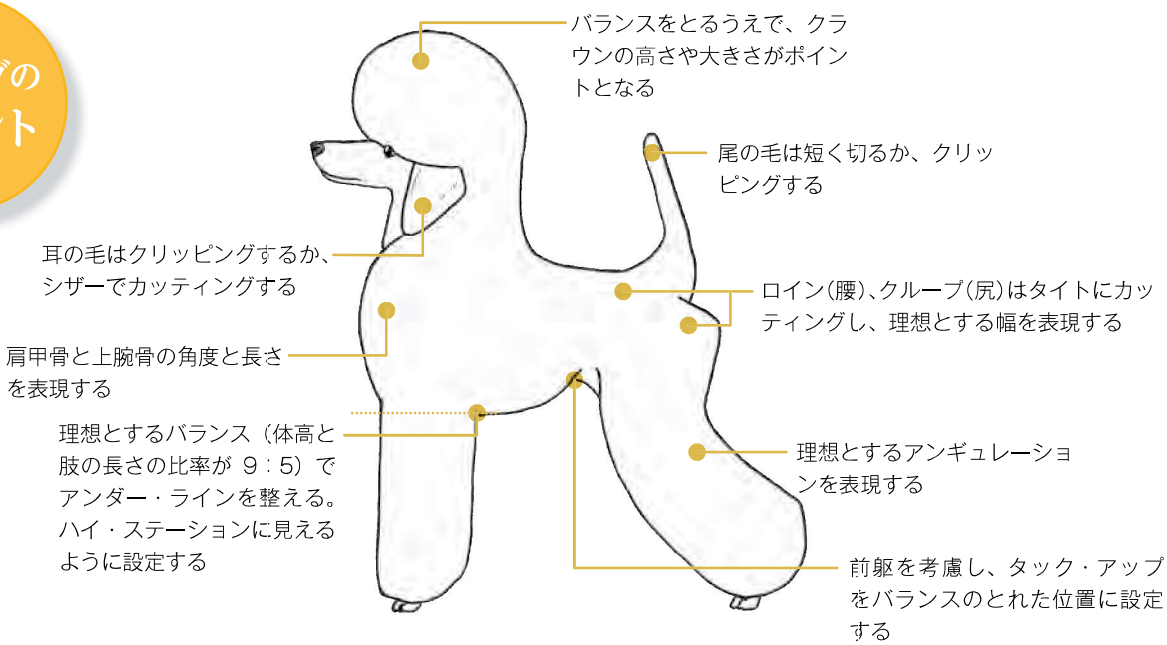
トイ・プードルの
スカンジナビアン・クリップ（テリア・クリップ）

このクリップと99ページのモダン・クリップはショー・クリップとして公認されたものです。
骨格構成を考慮した、立体的で洗練度の高いスタイリングに仕上げましょう。
プードルとしての風格や品格、誇らしげに高く掲げた頭部をはじめ、エレガンシーを表現します。二つのクリップは耳と尾のトリミング・スタイルは異なりますが、他は同一となります。
スタンダード（犬種標準）では体長は体高よりやや長いとされていますが、ハイ・ステーションでクラウンを高くし、ロング・ネックに作るため、スクエアに近い仕上がりとなります。

トリミングのポイント



1

トリミング前。前回のトリミングから2か月。ベイジング後に毛を伸ばすようにドライングした状態です。

<クリッピング>

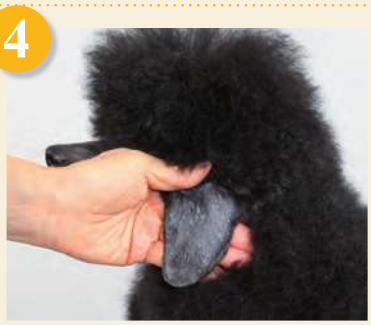
2

足先のクリッピングは最終の仕上がりのイメージや握りも考慮し、位置を調整します。

3

顔やネック・ラインのクリッピングはほかのショー・クリップのクリッピングを参考にしてください。ネック・ラインにおいては、はじめは浅めにクリッピングしておき、作業を進めながら調整するのも一法です。

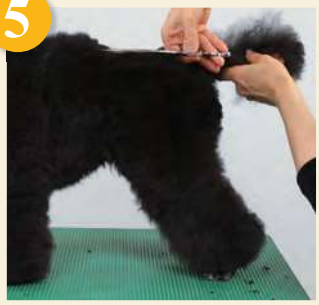
4



耳について、ここではクリッピングしていますが、クリッピングする場合の判断材料としては耳の厚みや大きさを目安にするといいでしょう。後ほど調整できるよう、耳の付け根より少し下方を基点に先端に向けて進めます。
小葉や返しの部分、耳ふちを作業する際は、手を添え、クリッパーの刃を皮膚に対して添わせるようにして刈り進めます。

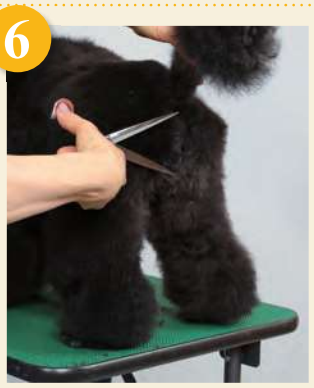
<シザーリング>

5



フット・ラインの角度をモデル犬に適した角度で切り上げたら、体高の目安となる背線をカッティングします。側望して実際のボディーの中間あたりまで、テーブル面と平行に作ります。
ここでは体高を先にカッティングしていますが、尾の裏とサイドをおおまかにカッティングし、寛骨から背線へと進行するのもよいでしょう。尾の付け根周辺は、後ほど調整するために残しておきます。

6

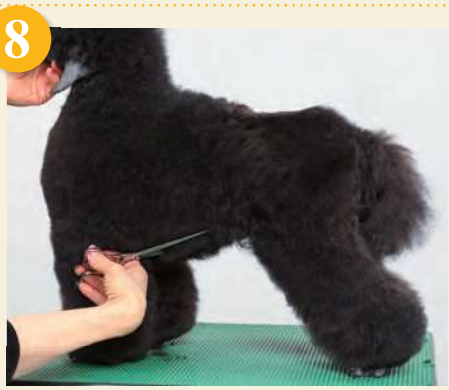


寛骨を理想とする角度にしたら、側望して、体長や体高、ショート・バックに作ることやテールセットも考慮して坐骨端から膝裏の上方あたりまでカッティングします。理想的なアンギュレーションをイメージし、大腿骨と下腿骨が等しく見えるようにします。また、斜めから見てもアンギュレーションがわかるように立体的なカッティングを心がけます。

7

側望して、ネック・ラインから前胸部を作成します。肩甲骨・上腕骨の角度や長さ、体長・体高のバランスを確認し、アンダー・ラインとのつながりを考えながらカッティングします。前胸部のふくらみの頂点は肩端の位置を目安にするとよいでしょう。

8



胸底から肘を通りアンダー・ラインにつなげます。体高9に対して肢長は5のバランスです。

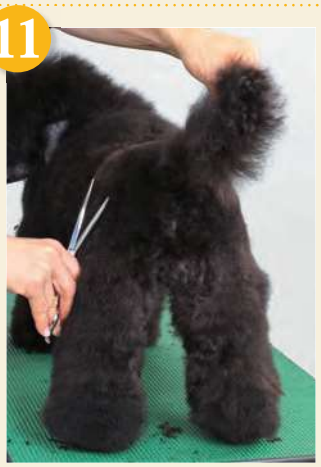
9

前胸部とアンダー・ラインの目安です。アンダー・ラインは、側望して肘の後ろにテーブル面と平行なラインを少し作ります。リブ・ケージは長く、ロイン（腰）は短く、プードルの理想的な骨格構成をイメージしてカッティングし、タック・アップにつなげます。

10

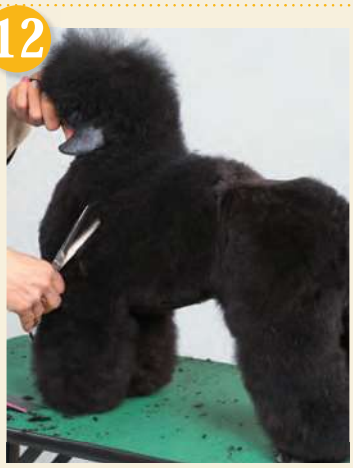
おおよそのクループ（尻）幅やロイン（腰）の幅を決めます。理想的な構成の場合は、多くの毛を残す必要はありません。尻からラスト・リブ手前までをタイトにカッティングします。

11



クループ（尻）の幅を決めたら、大腿部につないでいきます。パピー・クリップの後躯とは異なります。

12

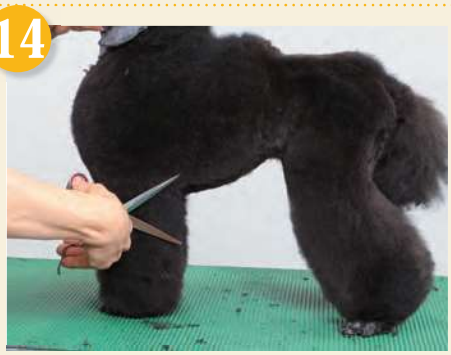


ボディーの幅を決め、そこから下側を前肢外側の付け根に向かってやや絞り込みます。次にネック側面からショルダーにかけてなだらかにブレンドします。ロング・ネック、肩の角度、ボディーの充実した幅感などを意識してください。

13

サイドボディーはウエストに向かって充実したリブ・ケージをイメージしながらカッティングします。

14



前肢をカッティングします。外側は、肩からやや内側に設定し、テーブル面と垂直にカッティングします。前肢が細すぎたり短く見えたりしない工夫をしましょう。

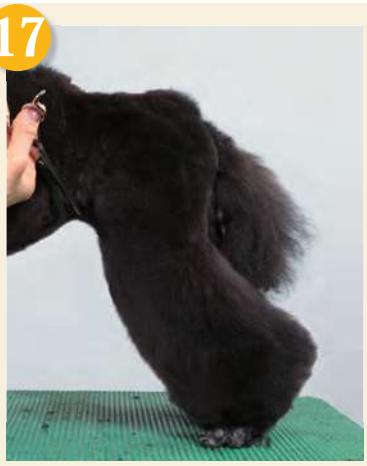
15

左前躯、ここまでの目安です。
ネックやボディーの幅、前肢の太さなどの参考にしてください。

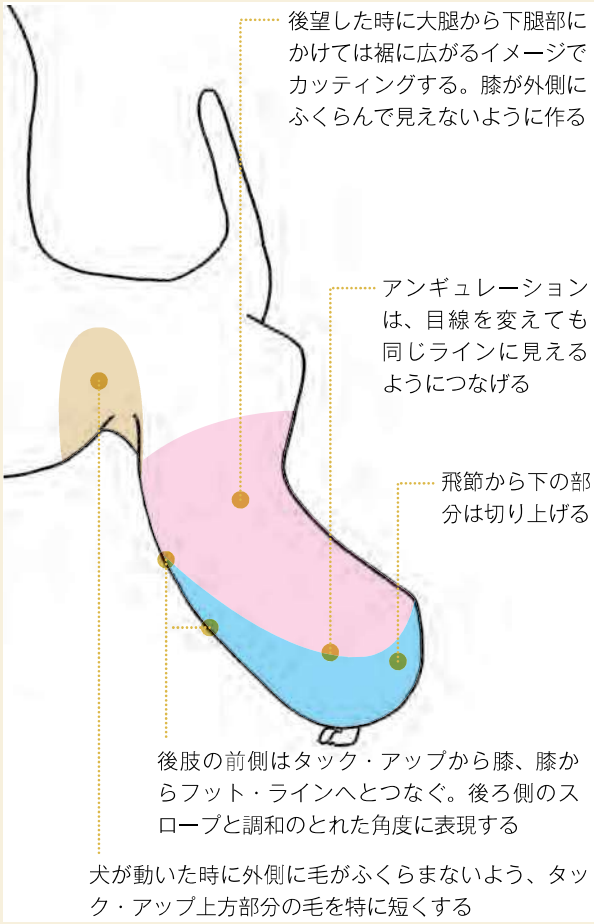
16

後肢は⑪でカットしたクループの幅から下側を、やや裾に広がるイメージでカッティングします。内側は外側と平行になるようにします。
左後肢、ここまでの目安です。

17



⑰後肢のアンギュレーションは大腿、下腿、ホックの長さと角度を正しく表現します。犬が動いた時の被毛の状態も考慮し、軽快さも表現しましょう。



18

イマジナリー・ラインからはみ出る毛を整理します。切り上げる部分は角度をつけすぎるとクラウンが小さくなるので注意が必要です。全体のバランスを見て、ほどよいボリューム感を出しましょう。クラウンの前側は、毛を残しすぎるとマズルが短く見えてしまうので気をつけましょう。マズルの長さにより、角度の調整が必要です。

19

クラウンの高さとボリュームは、理想体型に近づけるための重要なポイントです。

20

後頭部からキ甲へつなぎます。
ロング・ネック、ショート・バックをイメージしてカッティングしますが、ここの被毛を長く残しすぎると犬が動いた時に形状が変わることがあります。動きを想定して、バランスのよい仕上がりを目指しましょう。

21

おおまかな作業手順としては、側望におけるアウト・ラインを形成し、次に幅を決めるという流れで進めていくと、全体像をつかみやすくなります。
ここから微調整とチッピングで仕上げていきます。
テールセットは9時10分の方向が理想です。
今回はテリアの尾をイメージしてカッティングしています。尾の後ろ側の毛を短くし、前側を少し長く残すことで、テールセットをよく見せる工夫をしました。付け根はやや太く、先端に向かって細く作成しています。

完成

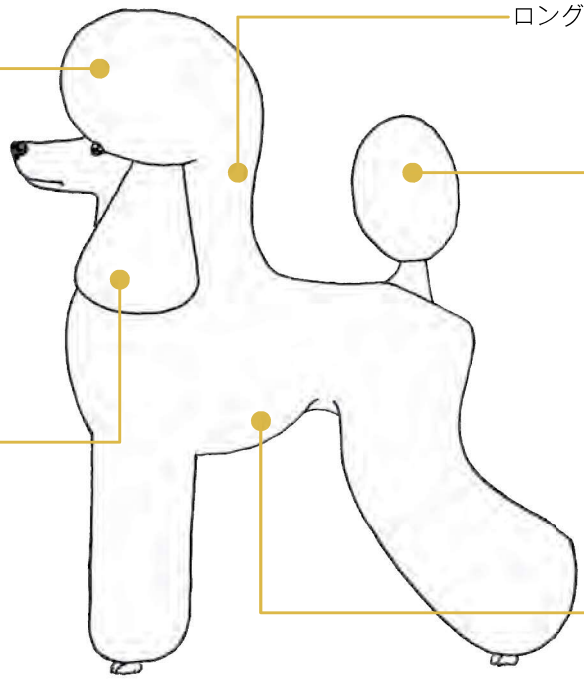
側望

前望

後望

上望

トイ・プードルの
モダン・クリップ

スカンジナビアン・クリップとは、耳と尾の作り方が異なるスタイルとなります。耳は、イヤー・フリンジが重くなりすぎない程度に、バランスよくカッティングします。尾は、断尾していないナチュラル・テールにおいては楕円形に、断尾している場合は尾をセットした時にオクシパットあたりの高さを目安に整えます。

トリミングのポイント